

発達症と巡回療育相談

バンビの会療育相談会in五島

2015年11月1日 県立こども医療福祉センター
小児科 本山和徳



健康福祉総合病院

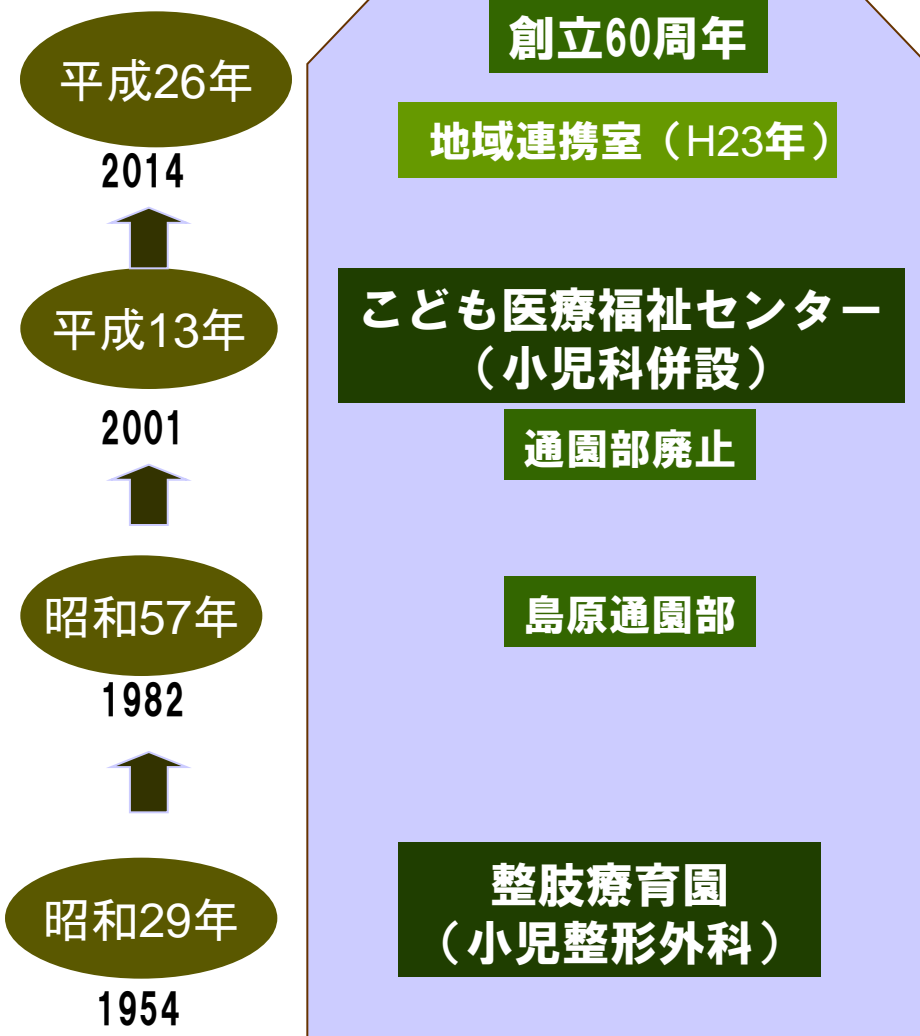
こども医療福祉センター

祝

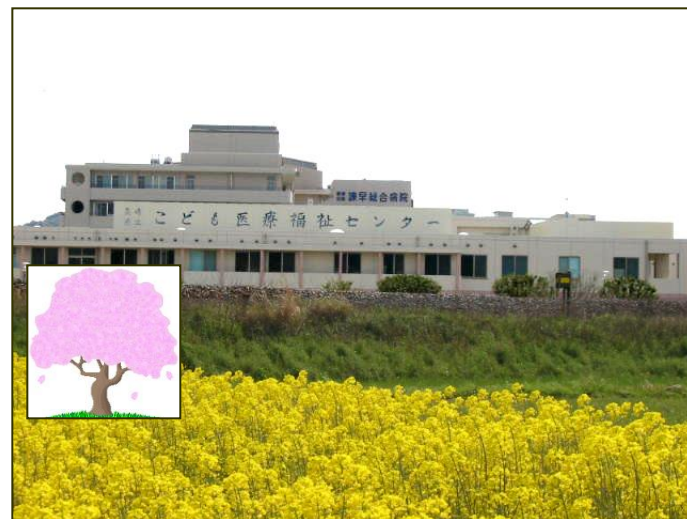
長崎県立こども医療福祉センター 創立60周年



こども医療の歩み

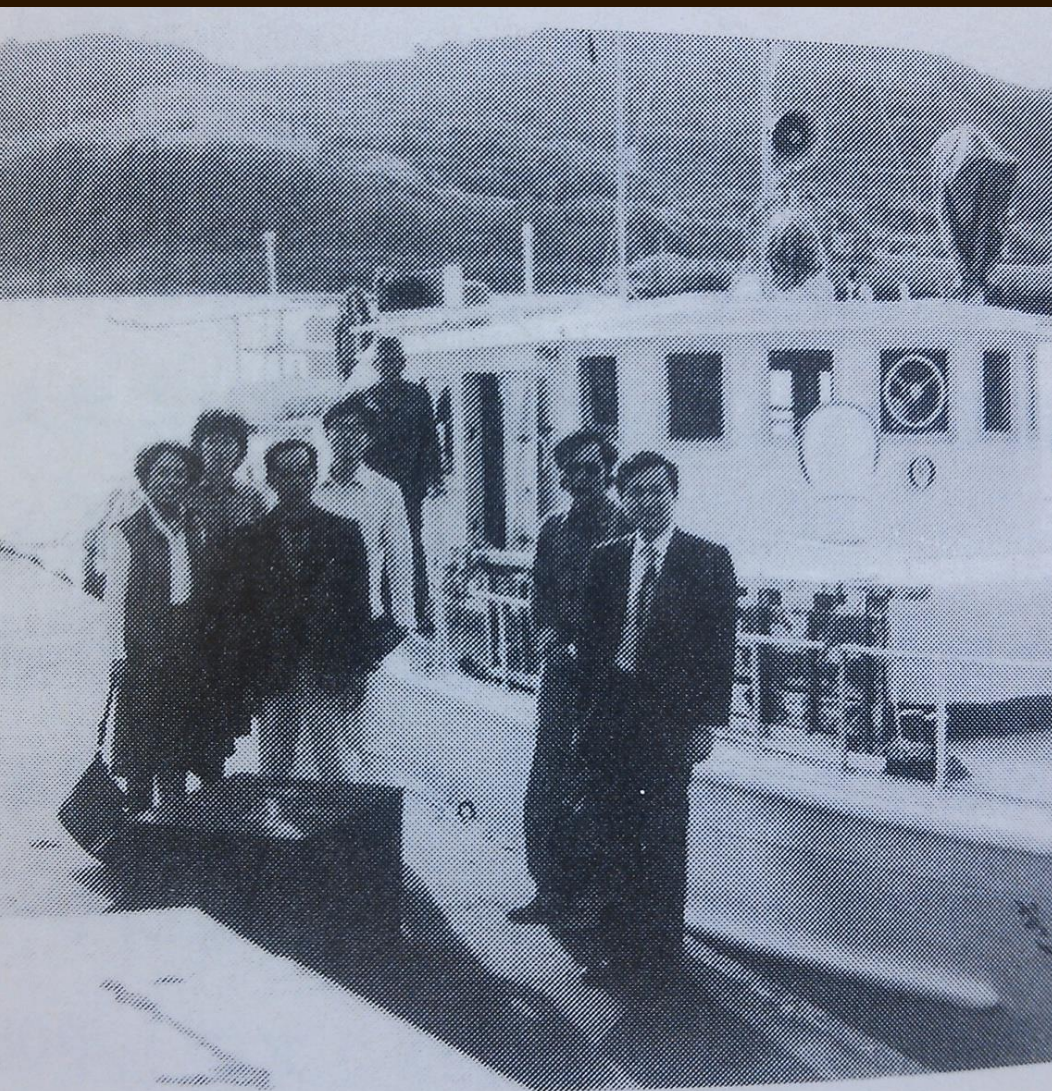


- 医療型障害児入所施設
（長崎県児童福祉施設条例）
- 病院（医療法）



病床数：60床
（一般50床、母子棟10床）

巡回相談の開始と経緯



- ・ 整肢療育園は昭和29年に開設されたが、その翌年の昭和30年11月にはすでに「第一回肢体不自由児無料巡回相談」を開始している。

- ・ 昭和55年からは長崎県の事業として開始され、昭和57年から「心身障害児(者)巡相」と改名して本格的に実施となった。

- ・ 巡相の実施主体は当センターと保健所だが、関係機関とも連携をとっている。

児童福祉法改正に伴う長崎県の支援体制

都道府県

高度な専門的支援・バックアップ

長崎県障害福祉課
長崎県こども政策局

こども医療福祉センター

発達障害者支援センター
しおさい

こども・女性・障害者支援センター
長崎・佐世保

障害福祉圏域

関係機関等と連携・協力による支援機能の充実

医療機関

・長崎市障害福祉センター・佐世保子ども発達センター
・長崎病院・みさかえの園 など

県立保健所・8ヶ所

・西彼保健所・県央保健所・県南保健所
・県北保健所・五島保健所・上五島保健所
・壱岐保健所・対馬保健所

障害児入所施設

福祉型:みのり園、えぼし学園、あすなる
医療型:諫早療育センター、むつみの家、あゆみの家
長崎病院、こども医療福祉センター

障害児等療育支援事業:6ヶ所

・ひまわりの園・みさかえの園むつみの家
鈴田の里学園・普賢学園・赤木学園
すぎのこ園

障害保健福祉圏域
～市町村に1～2ヶ所

児童発達支援センター

福祉型:さくらんぼ園、ひまわりの園
すぎのこ園、たすかる早崎
ふわり久原
医療型:みさかえの園むつみの家

集団生活への適応支援
(個別支援)

専門的支援のノウハウ提供
(支援方法の共有・支援ネットワーク)

保育所等訪問支援

相談支援

市町村域

障害児通所支援の提供

地域支援の提供
(児童発達支援事業や保育所等に対する専門支援)

保育所
幼稚園等

相談支援事業所

<障害児支援利用計画の作成>

児童発達支援事業

学校
特別支援学校

児

放課後等デイサービス

こども医療福祉センター外来診療部門（小児・整形）

小児整形 （常勤3）

外来・入院
手術

小児整形疾患
脳性麻痺、
股脱、側彎、内反足、その他

発達

外来

発達障害
コミュニケーション障害、学習障害、精神遅滞、
自閉スペクトラム障害、多動性障害、その他

小児科 （常勤5、 非常勤2）

心療

外来・
入院

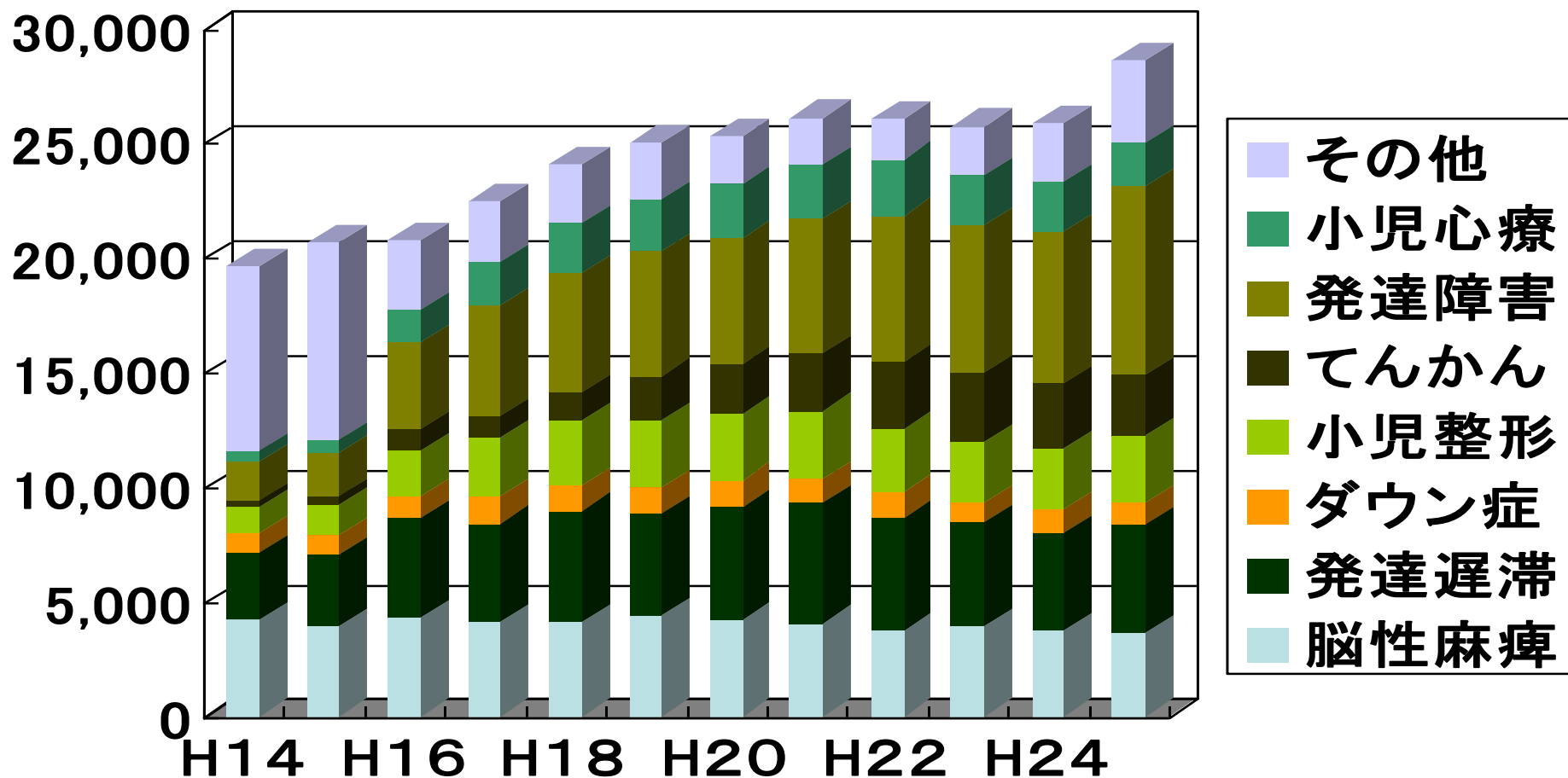
心身症および精神の障害
心身症、気分障害、不安障害、摂食障害、
チック、吃音、その他

神経

外来・
入院

小児神経疾患
難治性てんかん、他

受診者の病類別延人数



発達症（発達障害）（ ）:有病率

- 知的能力障害群（1%）
Intellectual Disabilities
- コミュニケーション症群/コミュニケーション群
Communication Disorders
- 自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害（1%）
Autism Spectrum Disorder (ASD)
- 注意欠如・多動症/注意欠如・多動性障害（子どもの5%、成人の2.5%）
Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder (ADHD)
- 限局性学習症/限局性学習障害（学齢期の子どもの5~15%）
Specific Learning Disorder (LD)
- 運動症/運動障害群
- 他の神経発達症群/他の神経発達障害群

ダウン症；0.1%
5万人（日本 1998年）



発達症

知的発達症 (MR)

(軽度、中等度、重度、最重度)

A: 知能検査から得られる知的機能の欠陥
(IQ:65~75)以下

B: 同年齢および社会文化的な背景を持つ人と比較した適応機能
(学問、社会、実用的領域)の欠陥

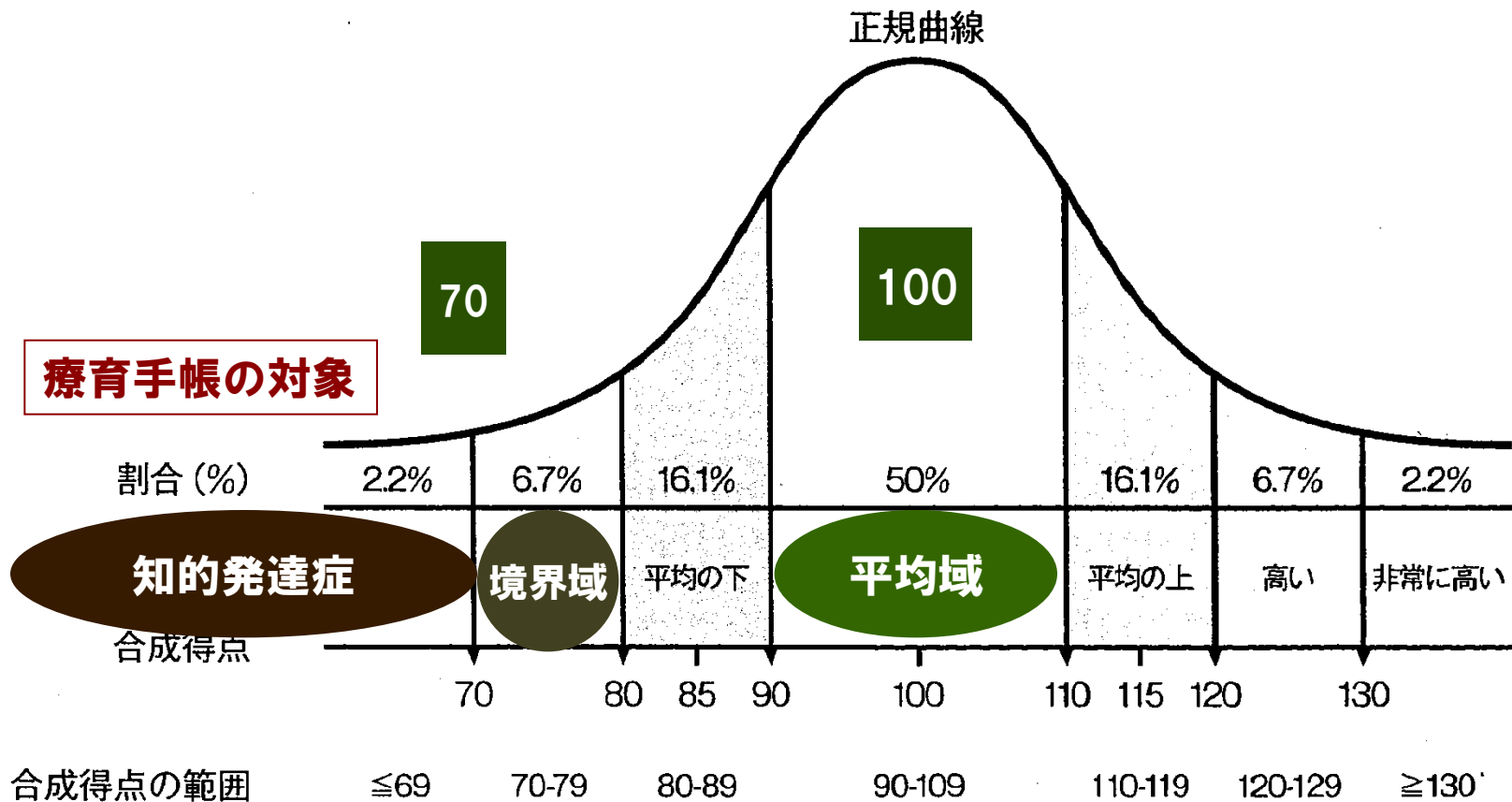
・**学問的領域:** 記憶、言語、読字、書字、数学的思考、実用的な知識の習得、
問題解決、新規場面における判断における能力

・**社会的領域:** 他者の思考、感情、体験の認識、共感、対人的コミュニケーション技能、
友情関係を築く能力、社会的判断

・**実用的領域:** セルフケア、仕事の責任、金銭管理、娯楽、行動の自己管理、
と仕事の課題調整

C: 発達期に発症

知能指数 (IQ) の分布



自閉スペクトラム症 (ASD)

レベル1: 「支援を要する」
レベル2: 「十分な支援を要する」
レベル3: 「非常に十分な支援を要する」

① 社会的コミュニケーションおよび対人的相互反応の持続的な欠陥

- 通常の会話、興味や感情の共有、やりとりの開始や応じることの困難
- アイコンタクトや身振り、表情の異常、その理解の困難
- 社会的状況に合った行動の困難、想像上の遊びを他者と一緒にすること、友人を作ることの困難

② 限定された行動、興味、活動の反復

- おもちゃを一列に並べる、物を叩くなどの単調な常同運動、反響言語、独特な言い回し
- 習慣への頑ななこだわり、小さな変化に対する極度の苦痛、移行することの困難、柔軟性に欠ける思考様式、同じ道順、同じ食物
- 極めて限定され執着する興味（一般的ではない対象への強い愛着または没頭）
- 感覚刺激への過敏または鈍感（痛み、音、触感、光、動き）

14歳男性（中学2年生）診断：ADHD, ASD

初診：3歳

- ・スーパーで一緒に買い物ができない
- ・道路に飛び出して車が急ブレーキをかけることが3回あった。
- ・幼稚園で他児を噛む、突き飛ばす
- ・会話が成り立ちにくい

10歳(小5)時に再受診

- ・友達関係を築けない
- ・一番にならないと途中でやめる
- ・相手の気持ちを汲み取って行動することが困難。
- ・集中の困難
- ・IQ:97(言語性100、動作性94)

「Aのお母さん、デブってる。」
とAに言った。

担任が確認すると

「Aが嫌な気持ちになると思わなかった」と言った。

宿泊学習で「12時に弁当を食べよう」と決めたが、ポイントにつく時間が遅れた。

ポイントに着いてから食べることになったが、12時になったので本人だけその場に座り、食べ始めた。

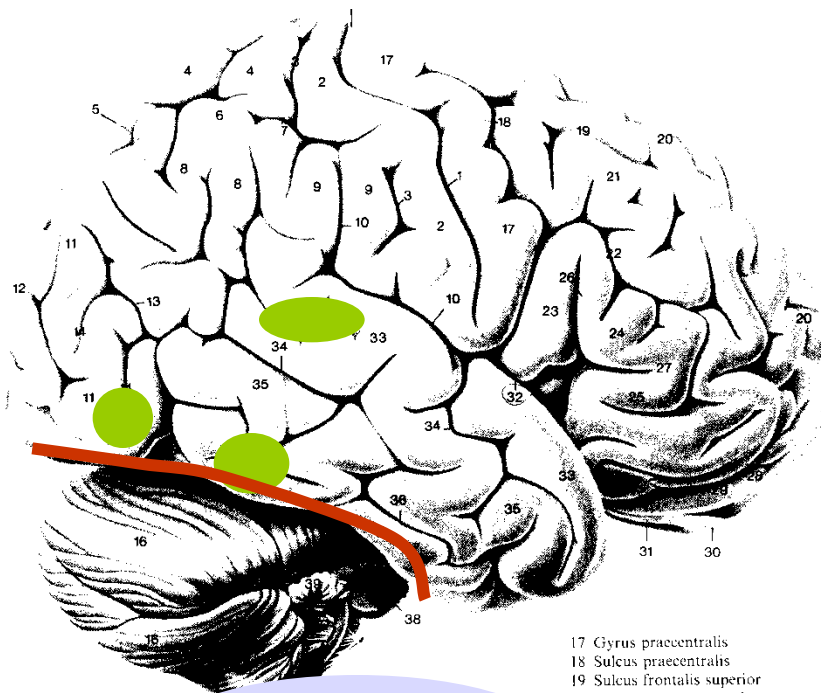
10歳男児（初診6歳）

主訴：ルールのある遊びができない。

経過：単語1歳5ヶ月。3歳健診では落ち着きがなく、保健センターのお遊びに通う。

園での様子；

- ・偶然のことを、わざとされたと思い込み相手に仕返しをする。
- ・好きな絵本やビデオの文章やせりふを、遊んでいる時に突然話す。会話の途中で、関係のない以前楽しかったことを突然話す。
- ・朝の集団体操には参加せず砂遊びや好きな遊びをする
- ・友達が遊んでいるおもちゃを黙って取るため、トラブルになる
- ・丸いもの、赤いものに興味があり、外遊びの時は必ず、赤いボールとスコップを持ってくる



紡錘状回
(Fusiform gyrus)

- 17 Gyrus praecentralis
- 18 Sulcus praecentralis
- 19 Sulcus frontalis superior
- 20 Gyrus frontalis superior
- 21 Gyrus frontalis medius
- 22 Sulcus frontalis inferior
- 23 Pars opercularis
- 24 Pars triangularis } Gyrus frontalis inferior
- 25 Pars orbitalis
- 26 Sulcus lateralis, ramus ascendens
- 27 Sulcus lateralis, ramus anterior

- 1 Sulcus centralis
- 2 Gyrus postcentralis
- 3 Sulcus postcentralis

(大脳外側面)

他人の顔を認知
する部位



- 1 Truncus corporis callosi
- 2 Septum pellucidum
- 3 Fornix

- 17 Splenium corporis callosi
- 18 Thalamus

(大脳内側面)

社会性脳 (Social Brain)
(Baron-Cohnら 2005)

注意欠如・多動症 / 注意欠如・多動性障害

(1) および/または(2)によって特徴づけられる、不注意および/または多動性-衝動性の持続的な様式で機能または発達の妨げとなっているもの。

(12歳前からみられ、二つ以上の状況で起こっていること、他の精神疾患ではうまく説明されないこと)

(1) 不注意：

以下のうち6つ(17歳以上では、少なくとも5つ)それ以上が少なくとも6ヶ月持続し社会的、学業的に悪影響をおよぼすほどのもの

- ・ 学業、仕事、他の活動中に綿密に注意することができないまたは不注意な間違いをする
- ・ 課題、遊びの活動に注意を持続することができない
- ・ 話しかけられたときに、聞いていないように見える
- ・ 指示に従えず学業、用事、職場での義務をやり遂げることができない
- ・ 課題や活動を順序だてることが困難
- ・ 精神的努力の持続を要する課題(宿題、報告書作成、など)を避ける、嫌う、いやいや行う
- ・ 課題や活動に必要なものをしばしば失くす
- ・ 外的な刺激によってすぐに気が散ってしまう
- ・ 日常の活動で忘れっぽい

(2) 多動性および衝動性：

以下のうち6つ(17歳以上では、少なくとも5つ)、それ以上が少なくとも6ヶ月持続し社会的、学業的に悪影響をおよぼすほどのもの

- ・ 手足をそわそわ動かしたりトントン叩いたりする、またはいすの上でもじもじする
- ・ 席についていることが求められる場面でしばしば席を離れる
- ・ 不適切な状況でしばしば走り回ったり高いところへ登ったりする
- ・ 静かに遊んだり余暇活動につくことがしばしばできない
- ・ しばしばじっとしていない
- ・ しばしばしゃべりすぎる
- ・ 質問が終わる前に答えてしまう
- ・ 順番を待つことが困難
- ・ 他人を妨害し、邪魔する

注意欠如・多動症（ADHD）

（幼児期から気付かれやすい）

（学童期以降に気付かれやすい）

多動性

- ・過剰な運動活動性～走り回る
- ・過剰にそわそわする
- ・しゃべりすぎる

不注意 優勢型

不注意

- ・課題から気がそれる
- ・忍耐の欠如
- ・集中し続けることの困難

多動・衝動 優勢型

混合型

衝動性

- ・見通しを立てることなく即座に行なわれる性急な行動～道に飛び出す
- ・すぐに報酬を欲しがる
- ・過剰に他人を邪魔する

成人期のADHD症状

- ・過剰な運動活動性～貧乏揺すりなど
- ・そわそわして忙しそう(内的な落ち着きのなさ)
- ・過剰なおしゃべり、相手の話を遮る

多動・衝動 優勢型

- ・転職が頻繁、思いつきの旅行
- ・危険な運転、衝動的 ・無計画な買い物
(待てない)
- ・喫煙/カフェインの過剰な摂取
- ・易刺激性/短気

混合型

不注意 優勢型

- ・課題から気がそれる
- ・先延ばしにする
- ・見通し、予測の困難
- ・計画通りができない
- ・忘れ物、なくし物が多い

8歳男児

- ・ 授業中、集中できずおしゃべりをして、周囲の迷惑になる。
- ・ 休み時間は、クラスメートとトラブルをおこしやすい。
- ・ 担任から、「親の愛情が足りないのではないか」と指摘され、母親は心痛の日々となる。

クラスでの様子（担任より報告）

- 担任の指示を聞き逃すことが多く、やるべきことが理解できず周囲を見て動いている様子がある。
- 全員指導の中で、担任の言葉の指示は聞いている様子が見られないが、黒板に絵を描くなど視覚的支援があれば黒板に集中している。
- テスト問題はぼんやりしてやり遂げることができない。
- 授業中、離席はないが後ろや横の友だちに話しかけることが多く、注意・集中が途切れることが多い。
- 授業中に関係のない話を突如始める。
- 休み時間などでは、友だちにちょっかいを出して、気を引こうとする。
- 友だちを驚かせようと、はさみを友だちの顔の前で振る。

診断：ADHD

メチルフェニデート服薬後（担任より報告）

- いるのかいないかが分からないくらい静かでした。
- 指示されたことを聞き、ノートを開いて、書く作業に集中して取り組み、別人のように感じました。
- 人の話に割り込んでくることもなく話を聞けるようになってきました。
- 係りの仕事でないのに給食台を拭いたり、黒板消しをしたり、ノート配りを手伝ったりするようになりました。
- ほめられると、嬉しそうです。

注意欠如・多動症の脳機能

4種類の実行機能 ネットワーク

前頭前野

線条体

側坐核

後部皮質

小脳

自己認識

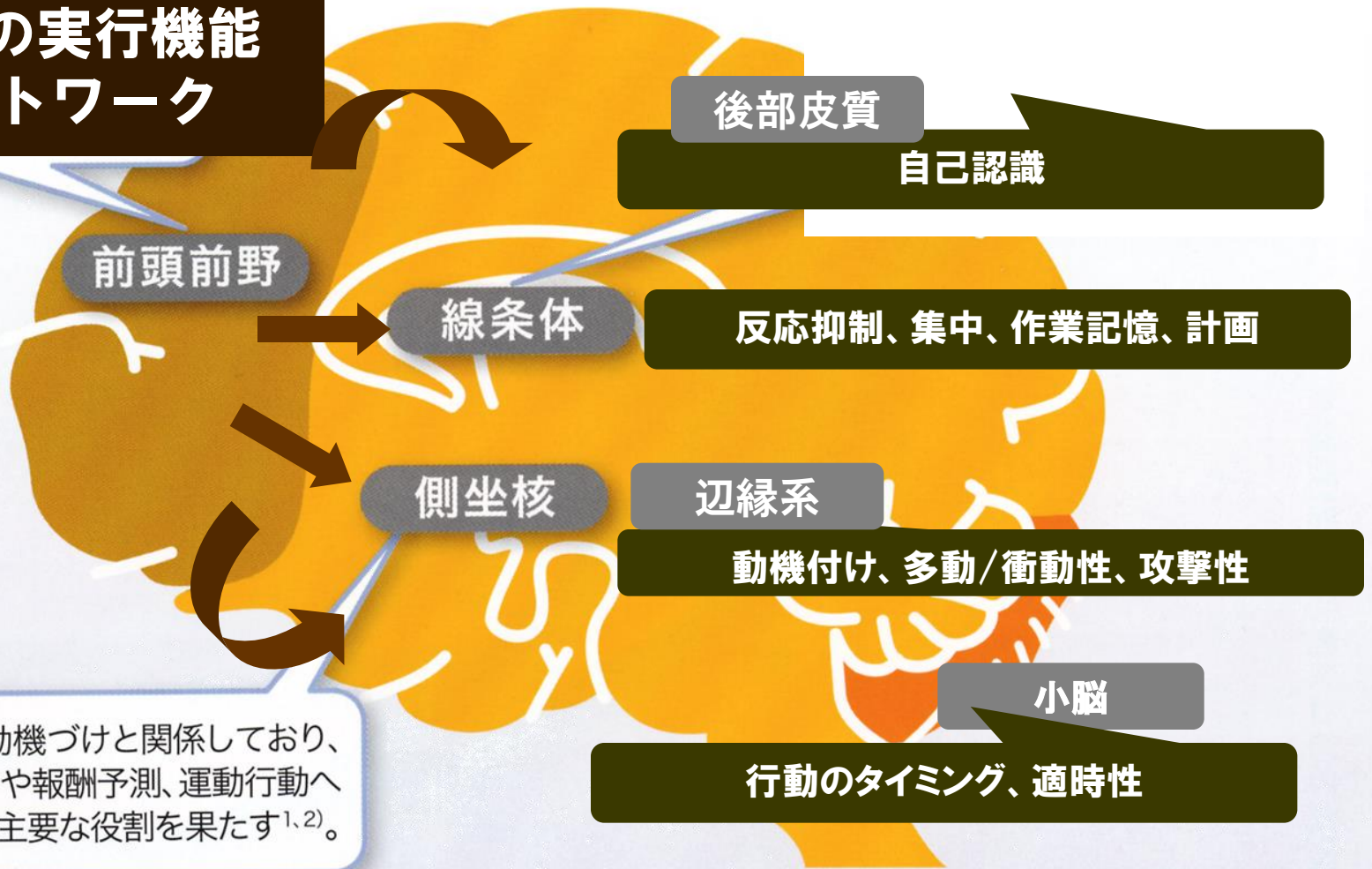
反応抑制、集中、作業記憶、計画

辺縁系

動機付け、多動/衝動性、攻撃性

行動のタイミング、適時性

記憶、感情、動機づけと関係しており、
誘因動機づけや報酬予測、運動行動へ
の変換などに主要な役割を果たす^{1,2)}。



限局性学習症（学習障害）

学習や学業的技能の使用に困難があり、その困難を対象とした介入が提供されているにもかかわらず、以下の症状の少なくとも1つが存在し、少なくとも6ヶ月間持続していることで明らかとなる。

A (1) 不的確で速度が遅く、努力を要する読字

読字障害

(2) 読んでいるものの意味を理解することが困難

書字表出障害

(3) 綴字の困難(母音や子音の付け足し、入れ忘れ、置き換えなど)

(4) 書字表出の困難(文法、句読点、段落のまとめ、思考の表出の困難)

(5) 数字の概念、数値、計算の困難(大小、関係の理解、一桁の足し算を指を使う)

(6) 数学的推論の困難(問題を解く際、数学的概念や方法を適用することが非常に困難)

算数障害

B.年齢に期待されるよりも、著明に定量的に低く、学業や職業遂行能力、また日常生活活動に意味ある障害を起こしていること。

C.学齢期に始まる

D.知的能力、視力、聴力、他の精神疾患、心理的逆境、不適切な学習指導によってはうまく説明できないこと

小学1年 男児

就学後、文章の読みがたどたどしく、文章の理解も困難。書字も苦手で、授業中に精神的に緊張するため、受診となる。

会話はでき、友だち関係も良好。

多動や集中力の低下は見られない。

経過

「読字障害」の診断

学校へ
連絡

通級指導教室で個別指導

・ IQ:93

(言語理解88、知覚推理93、
ワーキングメモリ94、処理速度107)

・ 単音音読時間；119秒 (10SD)
(年齢平均 33.8秒)

・ 単語速読検査；109秒 (5SD)
(年齢平均 37.8秒)

読字障害(Dyslexia)

正確または流ちょうな単語認識の困難であり、綴りや文字記号の音声化が拙劣であること

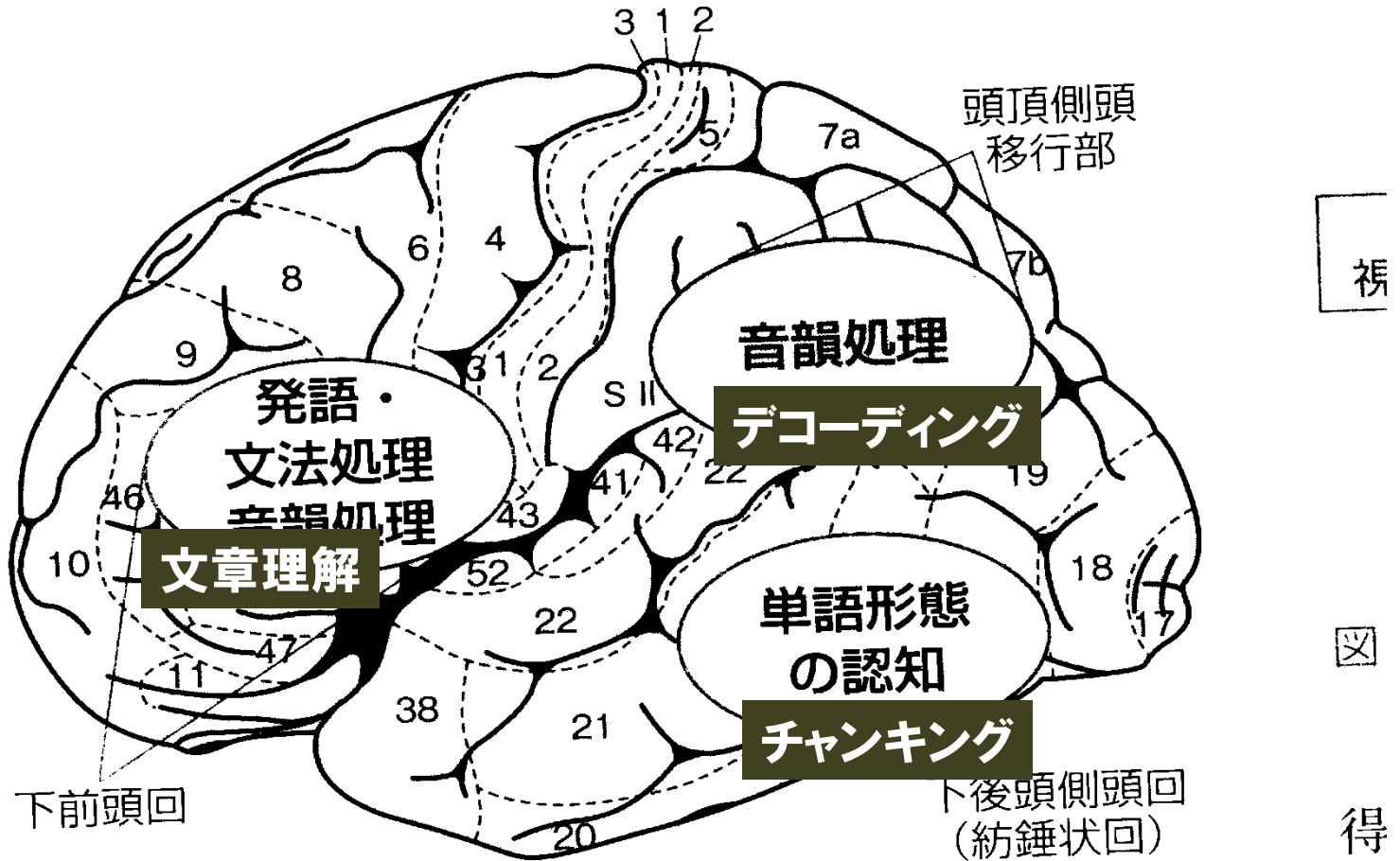


図1 読字にかかわる脳部位

発達障害の二次的障害

発達症の
諸症状

障害特性が理解されず、叱責や誤った対応が持続する

・反抗挑戦性障害

・行為障害

・うつ病性障害

不安・
抑うつ

暴言
暴行

非行

引きこもり

不登校

幼児期

学童期

思春期

ADHD、LD、自閉スペクトラム症、ダウン症候群

1902
Still氏病



1960
MBD
(微細
脳機能障害)

1973
LD

1980
ADHD

2007 (日本)

コンサータ

ストラテラ

2009 (日本)

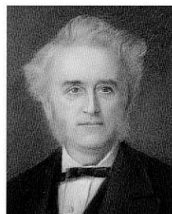
- ・2005 発達障がい者支援法
- ・2007 特別支援教育
- ・2012 インクルーシブ教育

1943
(カーナー)
早期幼児自閉症

1944
(アスペルガー)
自閉症性精神病

1981
(ウイング)
自閉症連続体

2013
(DSM-5)
自閉スペクトラム症



1866
(ダウン)
Mongolism

1959 (レジェーン)
21トリソミー

1965 (WHO)
Down syndrome

発達障害にみられやすい訴え

落ち着きがない

忘れ物が多い

ことばが遅れている

会話ができない

不器用



母子関係の悪化

養育困難～抑うつ

かんしゃくが強い

こだわりが強い



学校に行かなくなった

学習不良

友達関係をつくれない

- ・言葉の遅れ
- ・視線が合わない、振り向かない

保健センター
1歳6ヶ月健診
3歳健診

保育所・幼稚園

5歳健診

- ・集団行動が困難
- ・落ち着きがない、多動

発達の心配
養育困難

親子

診断・療育

障害受容

就労

学校

- ・友達が作れない、かんしゃく
- ・授業中の集中困難、離席
- ・学習の困難

発達障がい精密健診

1歳6ヶ月健診

- 部屋の隅にあるおもちゃを指さすと、お子さんはそれを見ますか。
- お子さんの名前を呼ぶと反応しますか。
- お子さんはあなたの動作をまねしますか。
- あなたに(親)に見せようと物を持ってきたりしますか
- 自分の興味ある物を人さし指で指さしますか。
- 他の子どもたちに興味を示しますか。

3歳健診

- あなたが悲しんだり痛がったりしていると慰めてくれますか
- 同年齢の子どもと同じくらいに、表情のレパートリーがありますか。(例;得意げ、心配、恨めしいなど)
- 仲間とのお遊戯に進んで参加して、やり方を真似しますか
- 見立て遊びやごっこ遊びをしますか
- 静かに座ってられない、落ち着きがないと思いますか
- 待つように指示すると落ち着いて1分以上待つことができますか
- 無謀な行動などで、けがをしやすいほうですか
- デパート、スーパーなどで、親を気にせずどこかに行ってしまうことがありますか

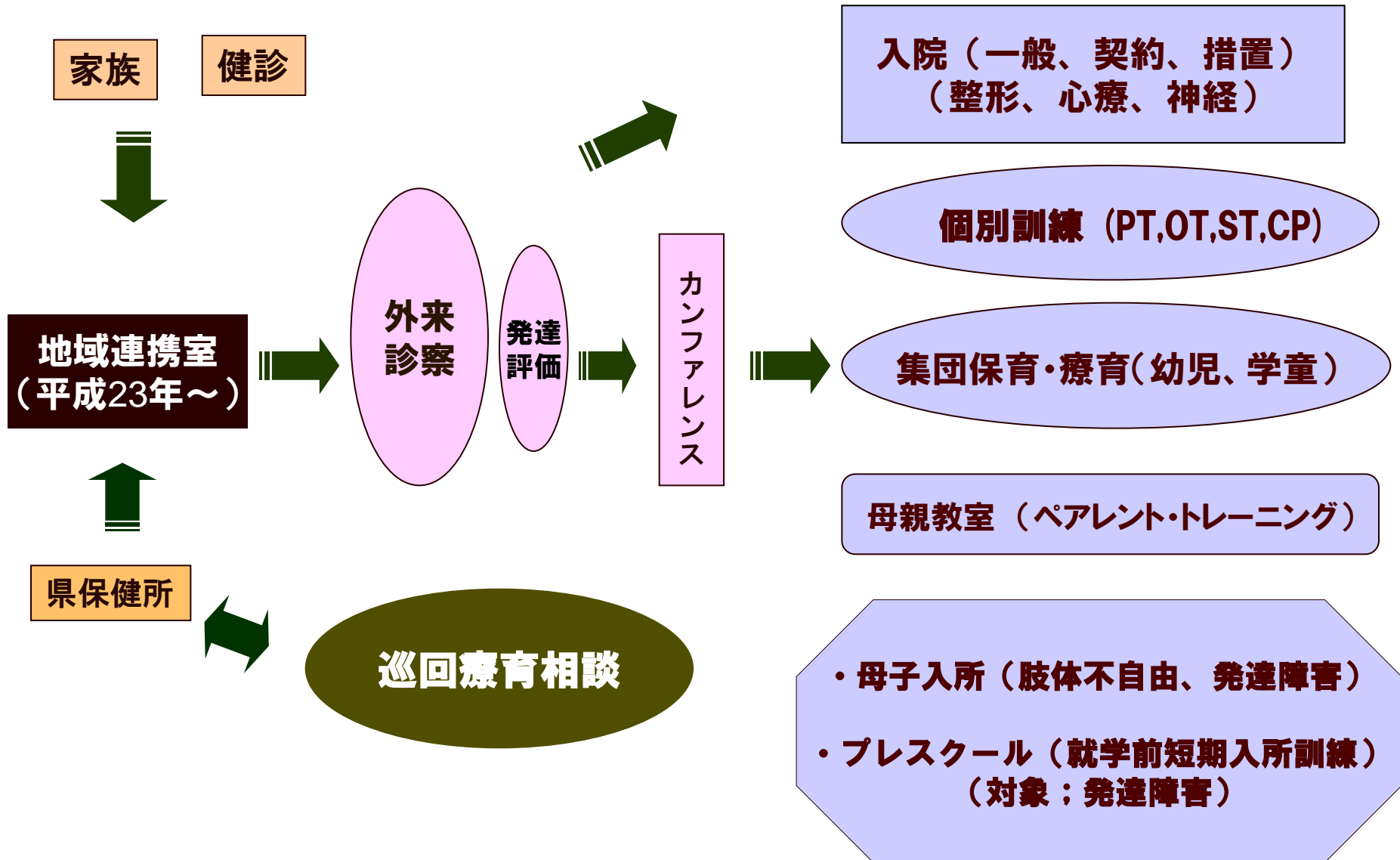
5歳健診

- 他の子ども達の遊びに自分から入って行きますか
- 冗談が通じないと感じますか
スムーズに他の子どもと相互にやり取りをすることができますか
- 他の子と同じ空想世界に入ってごっこ遊びをしますか
- しばしば、機転が利かない、あるいは社会的に不適当なことをしたり言ったりしますか
- 普通に目を合わせますか
- 奇妙な、または、普通でない言い回しをしますか
- 保育所・幼稚園で座っていなければならないのに席をはなれてしまいますか
- 質問が終わらないうちに出し抜けに答えてしまいますか
- うらやましがったり、やきもちをやいたりしやすいですか
- 行動が年齢よりも幼いと思いますか



就学

こども医療の診療・療育



集団療育



- 興味や能力にあった課題
(感覚運動、ルールのある遊び、机上課題)
- 他者との関わり、楽しさの経験
- 「待つ」、「聞く」トレーニング
- 褒められる体験



母子入所（日課）

6 : 50	起床・検温	13 : 30	回診（月）
7 : 30	朝食	14 : 00	検温
9 : 00～10 : 00	療法	14 : 30	おやつ
10 : 00～11 : 15	保育	15 : 20～16 : 10	自主訓練
11 : 00	プール療法 （木）	16 : 30	入浴
11 : 50	昼食・摂食指導	18 : 00	夕食
		20 : 00	消灯

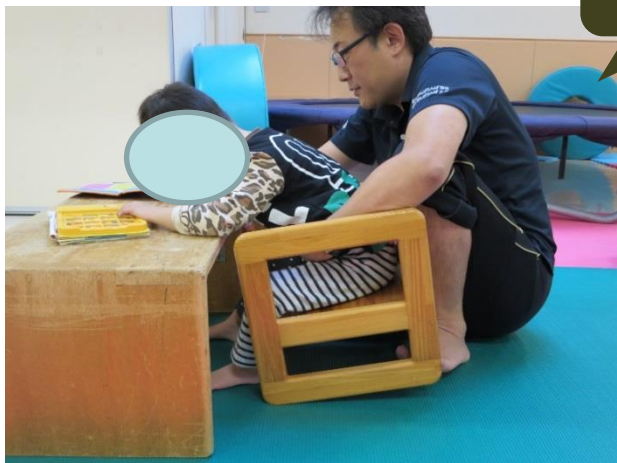
親子入院（1週～2週間）



理学療法



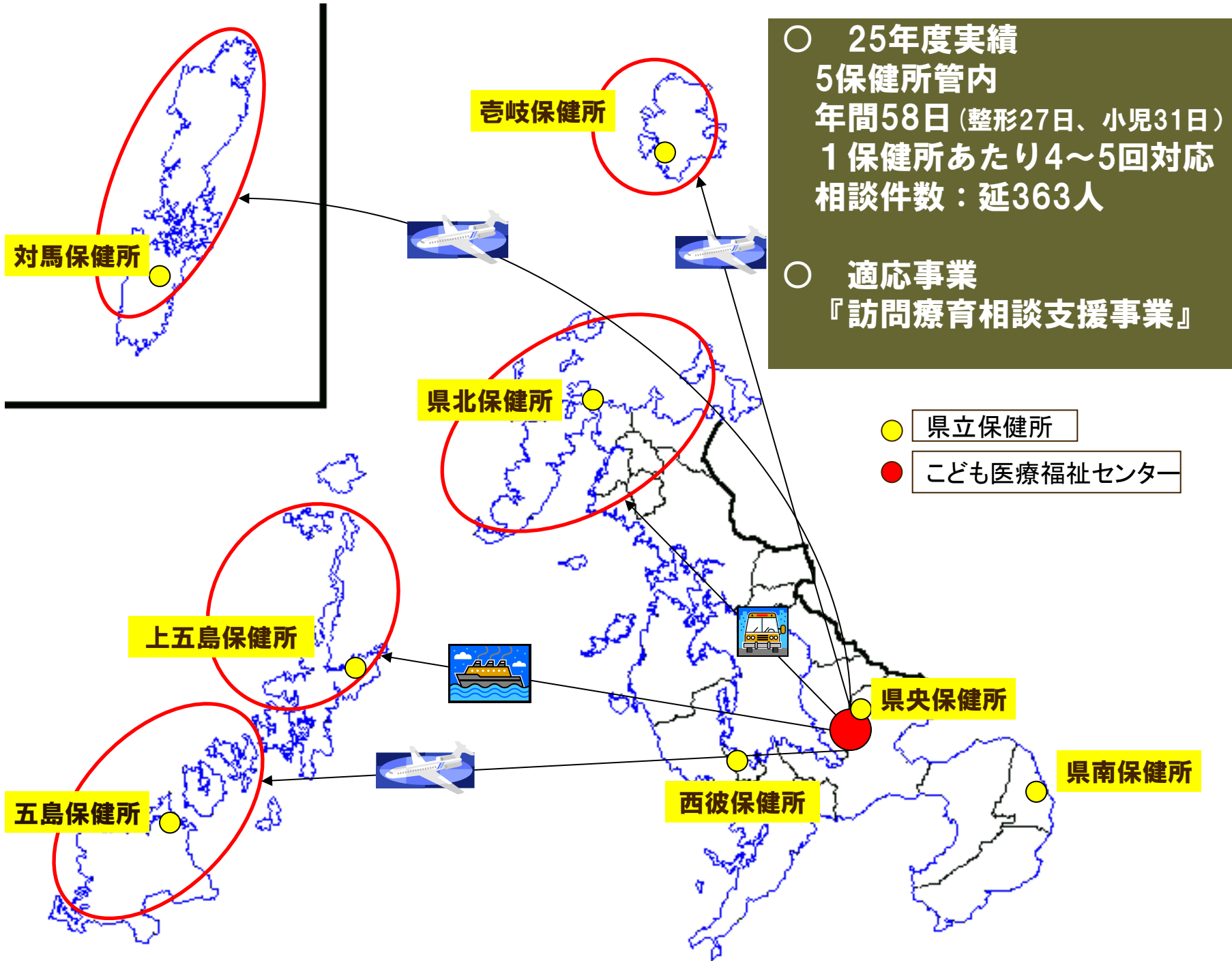
食事



作業訓練



プール



○ 25年度実績
 5保健所管内
 年間58日（整形27日、小児31日）
 1保健所あたり4～5回対応
 相談件数：延363人

○ 適応事業
 『訪問療育相談支援事業』

- 県立保健所
- 子どもの医療福祉センター

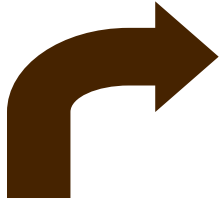
相談の場面

事前カンファ

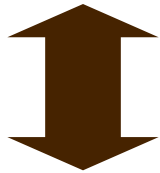
相談内容の確認



医師



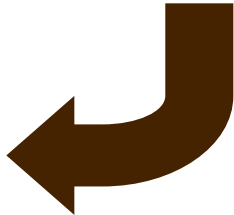
受付



療法士
(言語、作業、理学)



保健師



事後カンファ
(発達支援事業所紹介など)

巡回療育相談の場面（整形）



学校訪問

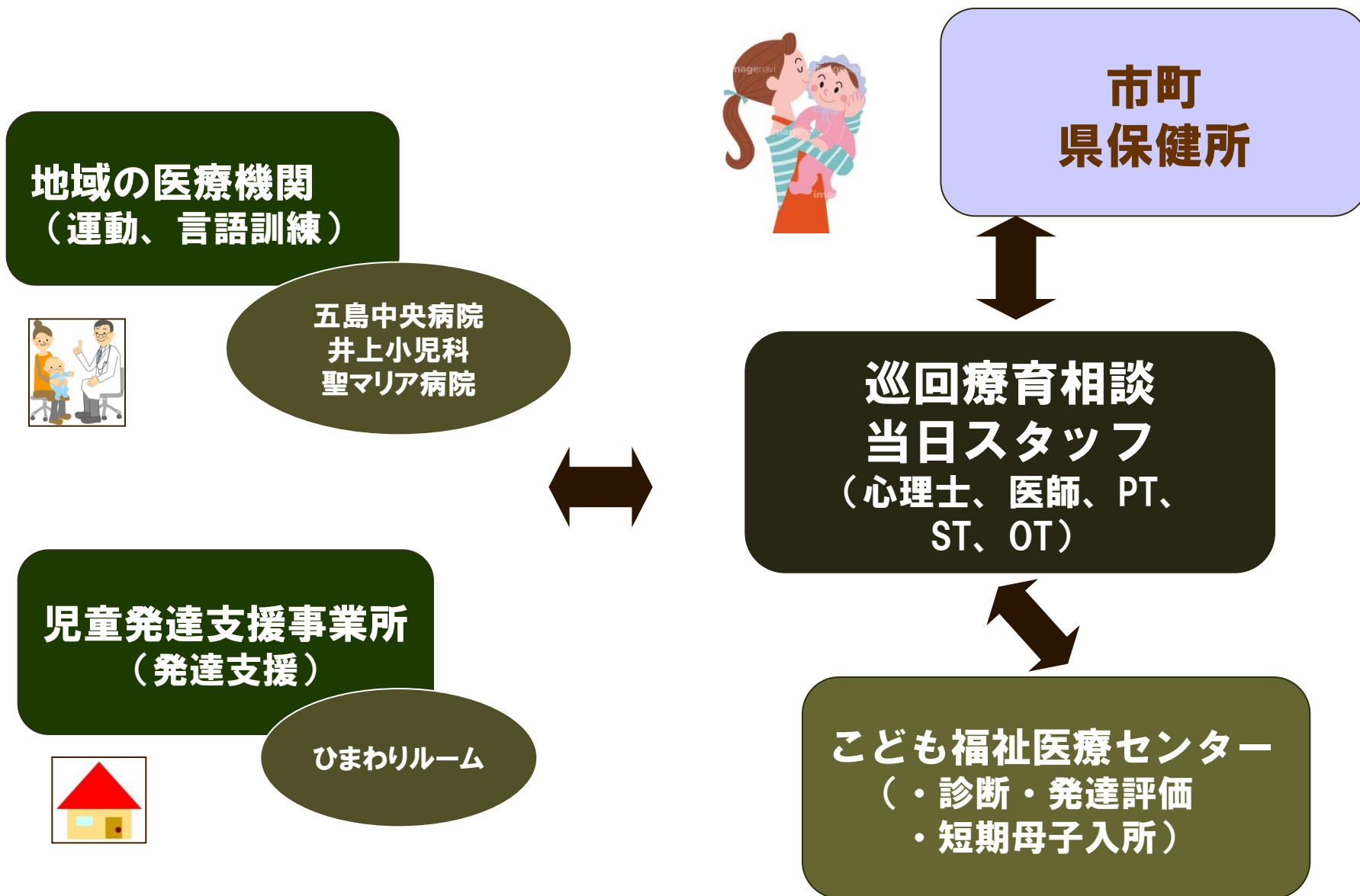


会場での相談



在宅訪問

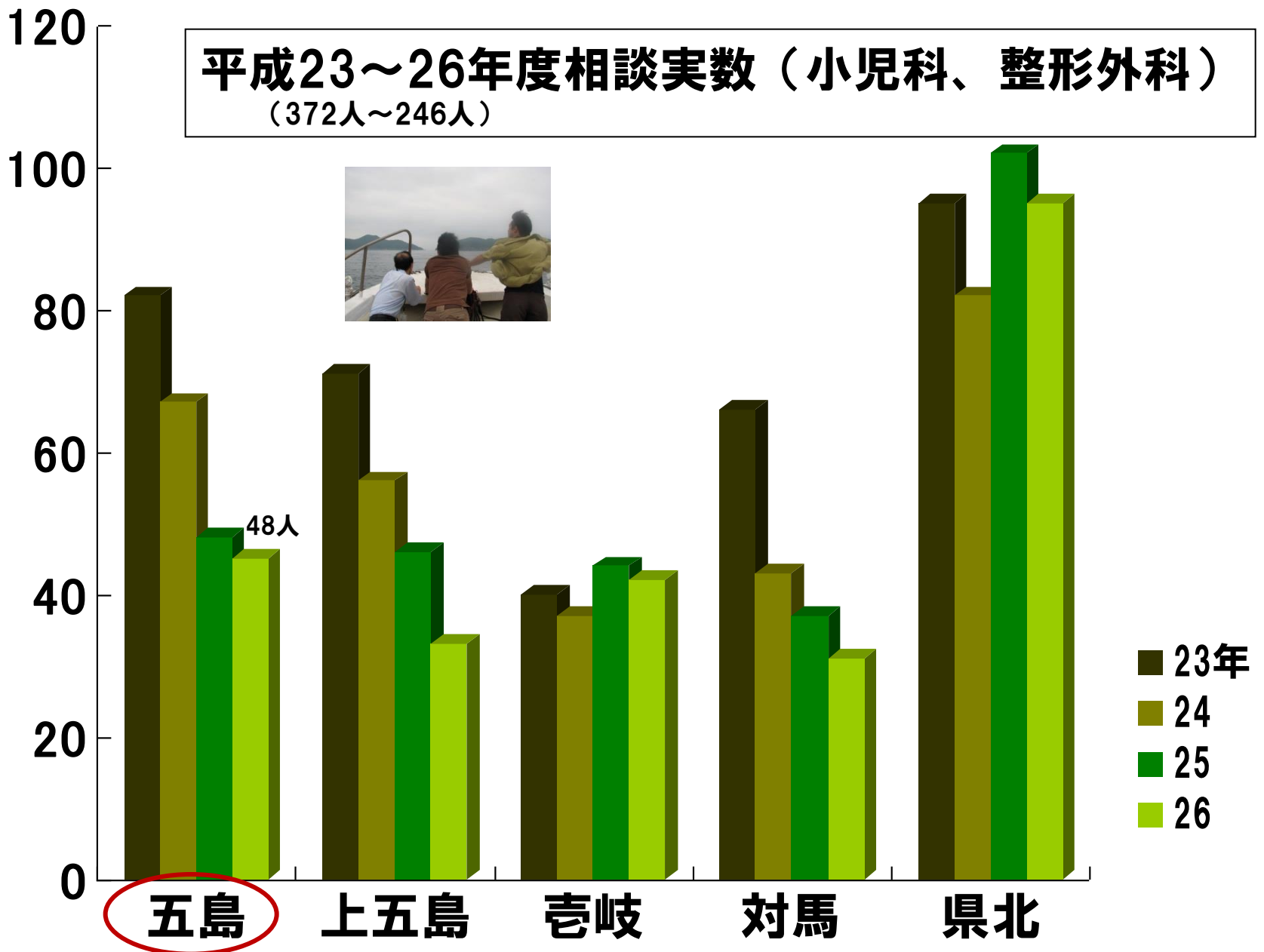
巡回療育相談の位置づけ



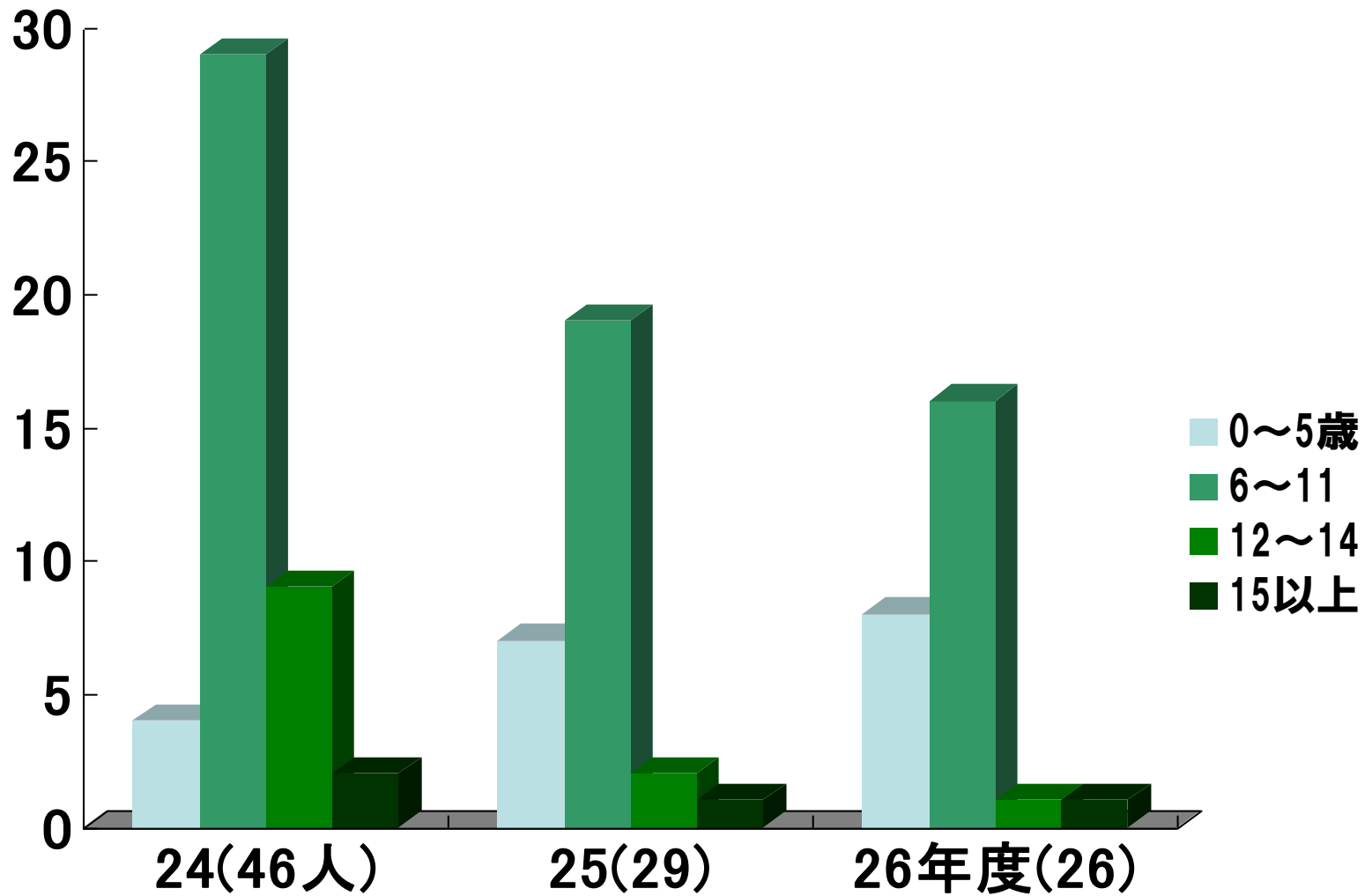
長崎県の発達支援事業所

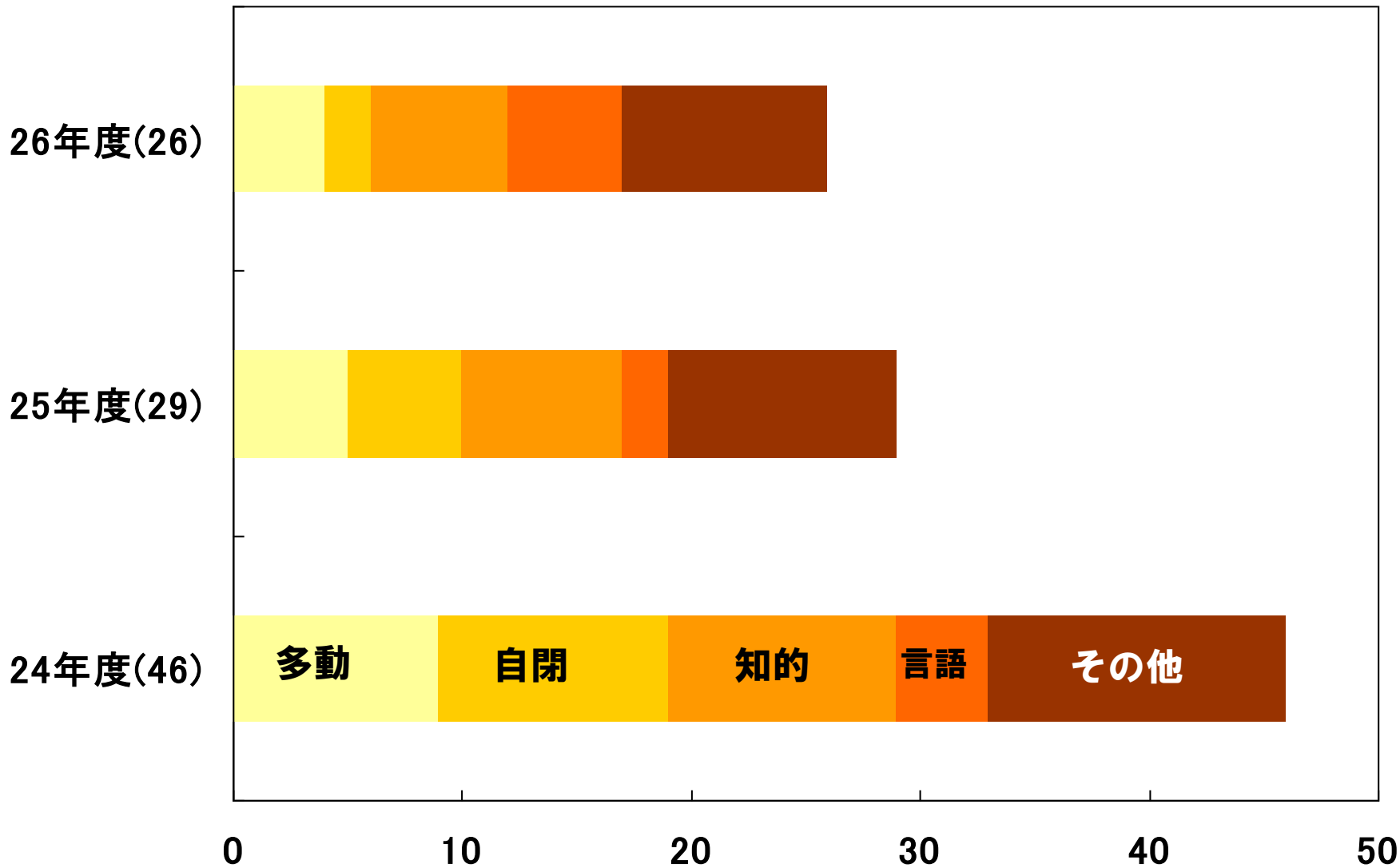


平成23～26年度相談実数（小児科、整形外科） （372人～246人）



五島地区： 年齢別小児科相談件数（実人数）

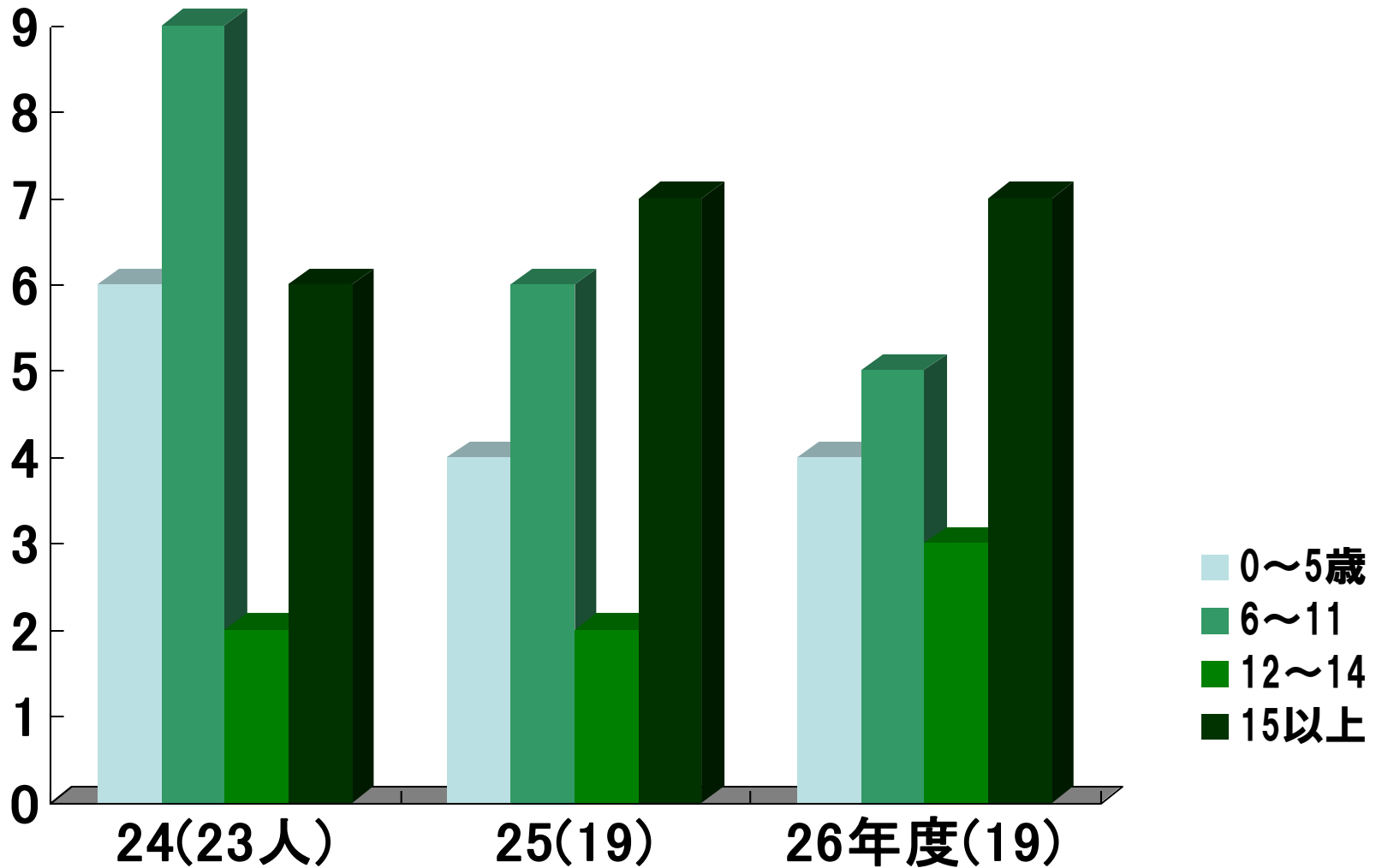


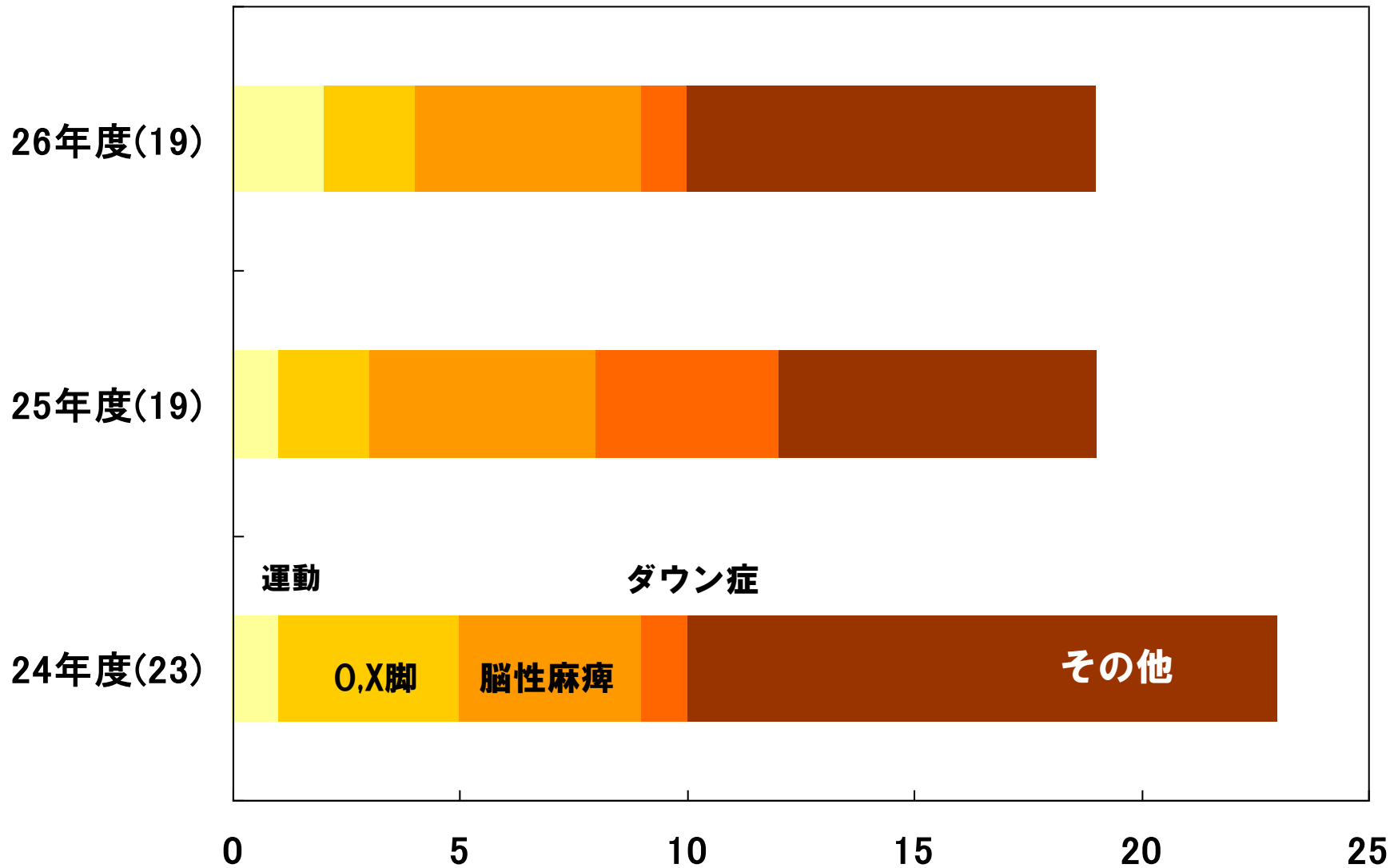


五島地区 診断別小児科相談（実人数）

その他：ダウン症、てんかん、
早期産児、脳性麻痺

五島地区： 年齢別整形外科相談（実人数）

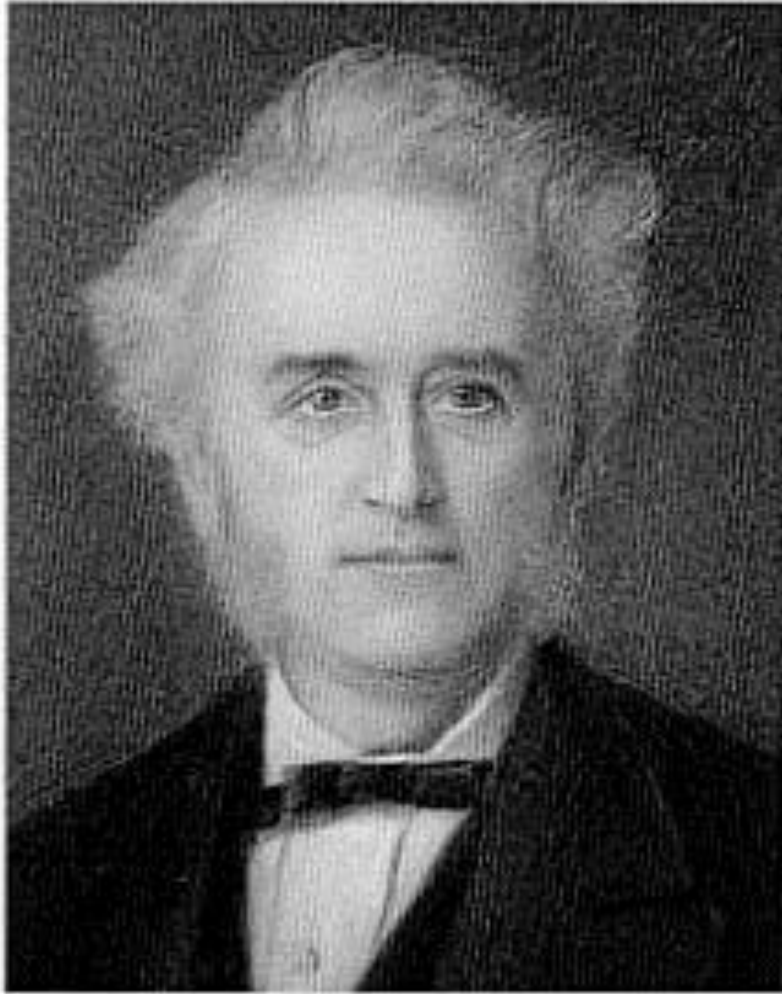




五島地区 診断別整形外科相談（実人数）

その他；発達遅滞、股脱
奇形、早期産児など

ダウン症候群の名称と歴史



ジョン・ラングドン・ダウン

1866年

- ・イギリスの眼科医ジョン・ラングドン・ダウンが論文を発表
「目尻が上がっていてまぶたの肉が厚い、鼻が低い、頬がまるい、あごが未発達、体は小柄、髪の毛は直毛で薄い」
- ・Mongolism（蒙古人症）と称された。

1959年

フランス人のジェローム・レジェーンが、21番染色体がトリソミーを形成していることを発見

1965年

WHOが「Down syndrome（ダウン症候群）」を正式名称とした。

2012年

国際連合が3月21日を「世界ダウン症の日」に認定する。

運動発達



頸座
(5~7)



寝返り
(8~9)



座る
(10~12)



這う
(15)



立つ
(18~19)



歩く
(24)

0

6

12

18

24



3~4



5~6



7~8



9~10



11~12



12~14

- ・体が柔らかい
- ・手先が不器用
- ・階段の昇降が不安定
- ・握力が弱い

巡回相談～ダウン症児（12例）

- ・ 現在年齢：2歳～18歳（7.6±5歳）
- ・ 男児6名、女児6名
- ・ 初回相談月齢：1～26ヶ月（10±8ヶ月）
- ・ 地区別人数：対馬2、松浦3、平戸3、
上五島1、五島3

てんかん 1名

甲状腺疾患 2名

血液疾患
2名 (1名白血病)

排尿異常 2名
(1名アリセプト服用で軽快)



眼科 5名
(内斜視、白内障)

60%

難聴 2名

75%

先天性心疾患 10名
(ASD、VSD、TOF)

50%

身体的合併症

性格
頑固、自己主張

聴こえ、**頸椎**、視力、**扁平足**、
排尿、肥満、栄養、
睡眠時無呼吸

就園、就学

行動
落ち着きがない

言語
コミュニケーション



療育・**運動訓練**

思春期
性の心配

発達全般
経過

運動の遅れ

巡回相談での主訴

 ; 整形相談

ダウン症児の発達の特徴

運動発達

- ・ 運動獲得の遅れ
- ・ 筋肉の低緊張
(活動を励まし、乳幼児期に
様々な運動の経験を)

知能発達

- ・ 軽度から中度のレベル
- ・ 精神発達は伸びる
- ・ 年齢が長ずると年齢標準との差

性格行動

おとなしい、人まねが上手
がんこ、おどける、人懐っこい

社会性

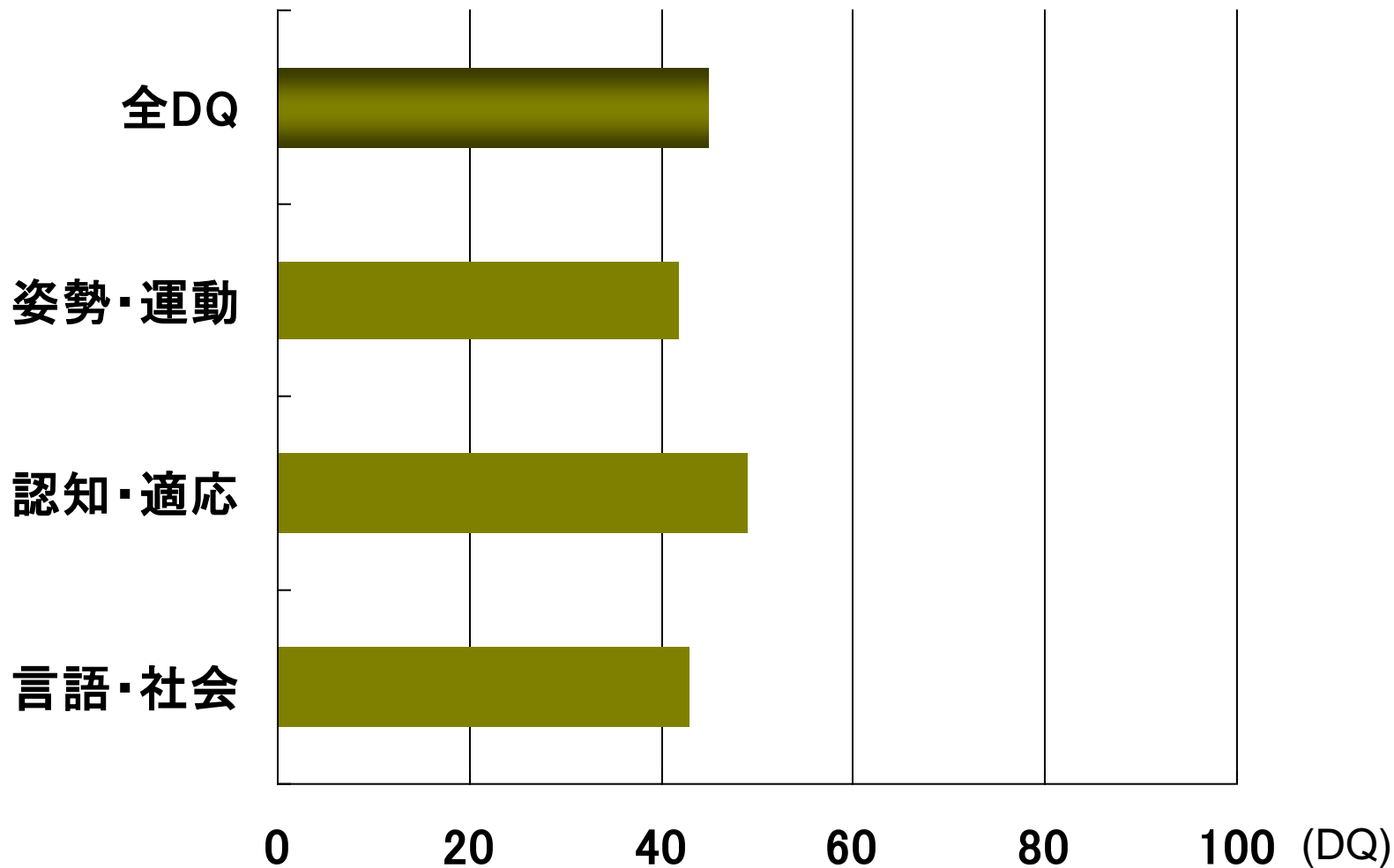
優れている
生活習慣(移動能力、買い物や金
銭管理など)の獲得

言語発達

- ・ 言語発達、特に表出の遅れ
(単語を話す～平均2歳半)
- ・ 構音が不明瞭(発声器官の特徴)
～噛むこと、吹く、吸う、
しゃべること

視知覚

(物を見て何であるかの判断)
優れている



ダウン症児16名の平均発達指数（新版K式）
(1歳10ヶ月～10歳11ヶ月、男児4、女児12名)

ダウン症児の言語発達に関する特徴

- 語彙が少ない

こどもの行動に合わせて遊びを共有し
関わり、ことばを使う

- 構音不明瞭（サ行が

- 摂食（機能に合う離乳食の形態）
- あそび（吹く、吸う、なめる）

- 口腔機能の低下（丸呑み 舌がはみ出す）

- 行動観察で音への反応をみる
- 耳鼻科受診（耳垢、中耳炎、難聴）
- 音を聴く経験

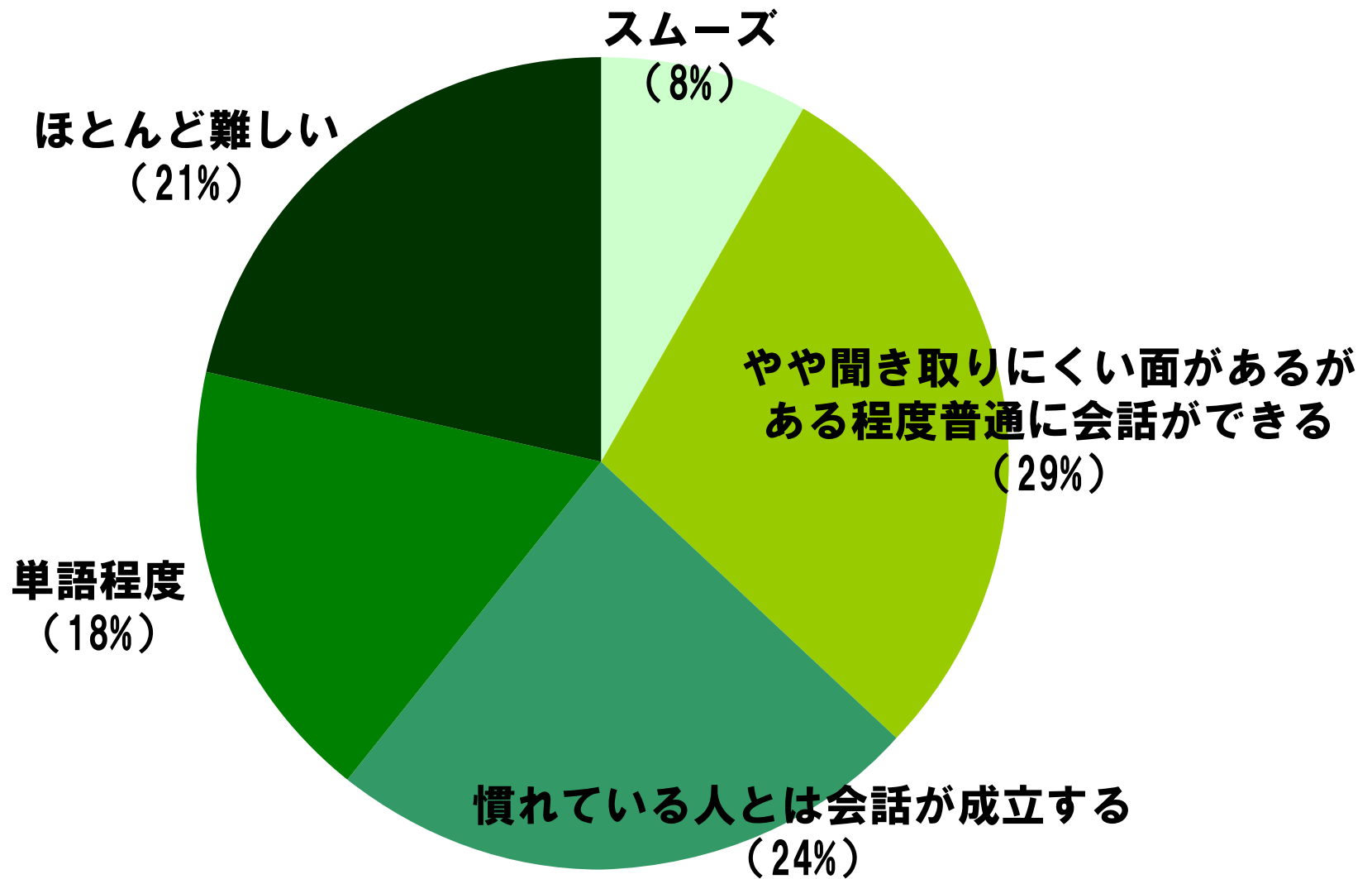
- 聴覚障害の合併が多い

音声とサインの同時提示

- サインや文字など視覚的な認知が良好

文字・文章指導～目で見て覚えることが得意

- 絵本や絵カード、手近な状況が描かれた絵を用いる
- 順序絵を用いる～因果関係を表現する
- 「読む」、「書く」、「話す」の3つの学習を繰り返し行なう



言語機能

(ダウン症児16歳～65歳；549人) (近藤達郎)

社会性と性格

- ・ 明るくて陽気
- ・ がんばりで強情な面がある
(変更が苦手、やり通す)
- ・ 気持ちの切り替えが難しい
- ・ いやなことをがまんしてしま

うっ

- ・ 注意されること
- ・ 欲求不満の処理が苦手

- ・ 大人や周りの子どもの動作を見本
- ・ 声かけして促し、積み重ねる

- ・ 食事、排泄、清潔、身辺自立は得意
- ・ 掃除、料理、洗濯、金銭管理、買い物は苦手

- ・ 共感関係を築くこと

早期教育プログラム（池田由紀江）

言語
（言葉の理解、表出）

生活
（食事、排泄など）

認知
（視知覚、弁別、物の操作）

運動
（座る、歩くなど）

- ・統合保育
- ・児童発達支援事業所
- ・通園施設



3～5歳

地域、集団
自己コントロール
生活習慣
コミュニケーション

1～2歳

手の操作
移動
対人関係
歩行・ことばの獲得

0歳

母親との愛着
感覚
探索

療育から教育へ

- ・感覚・運動的あそび
(型はめ、積み木あそびなど)
- ・見立て遊び、ごっこ遊び
- ・生活(食事、更衣、洗面、入浴、就寝)の場での言葉かけ、関わり

超早期療育

ダウン症

自閉スペクトラム症
～ESDM

早期療育

(医療・福祉)

- ・統合保育
- ・児童発達支援事業所
- ・学習支援

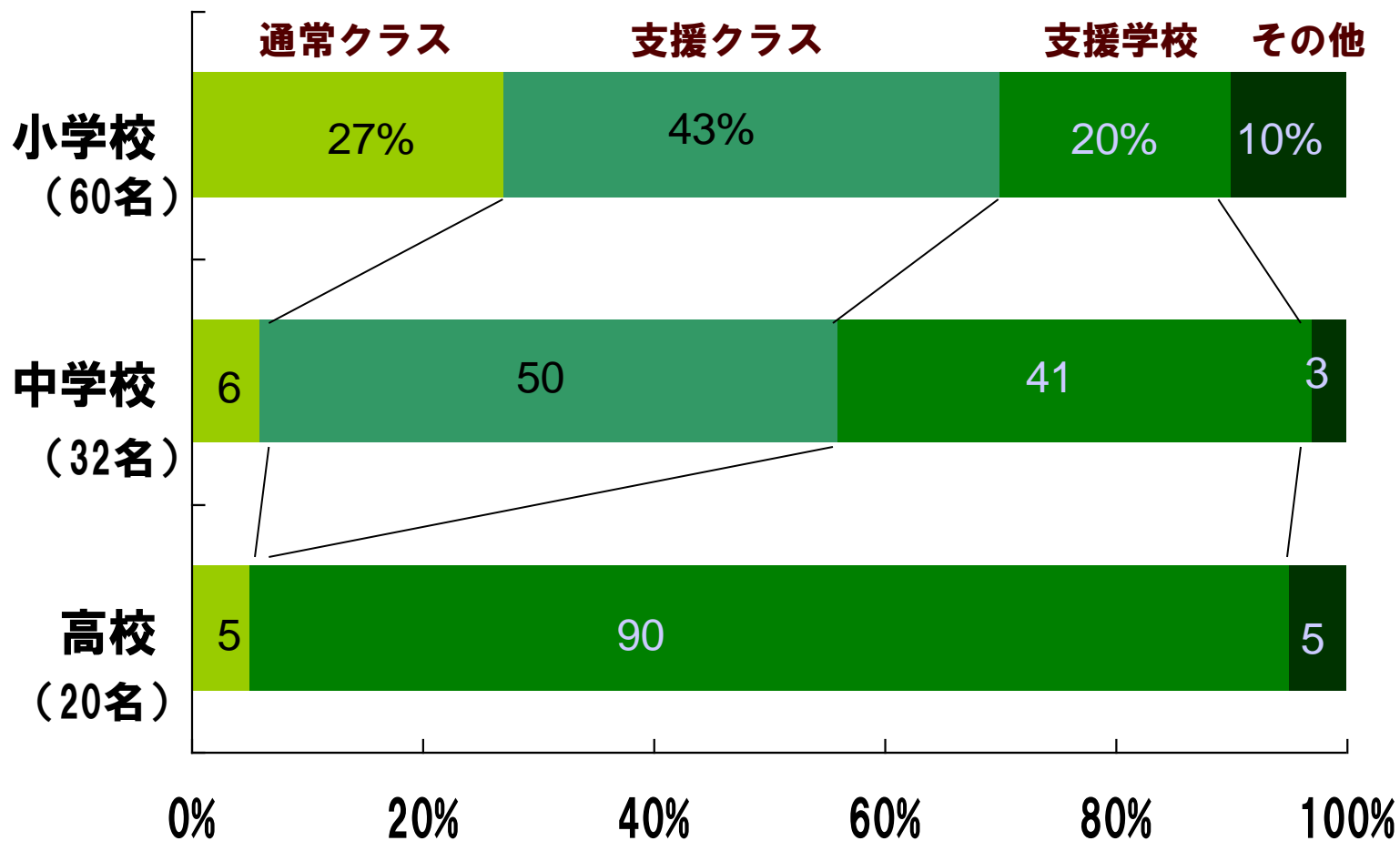
就学

- ・通常クラス
- ・通級指導
- ・支援クラス

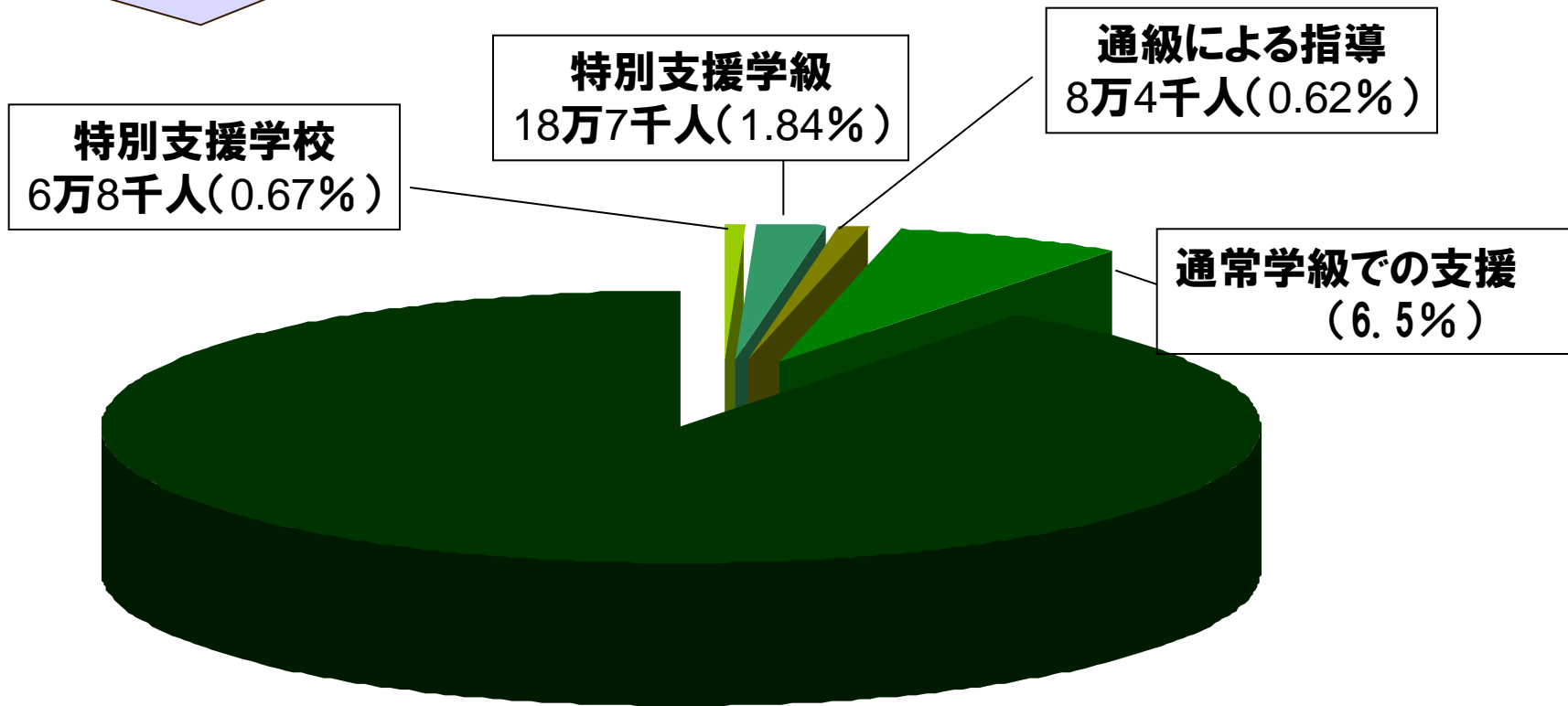
- ・学校や家庭での生活体験で学習
- ・学校教育～数概念、単元学習的取り組み
- ・家庭～おやつ、食事、買い物、遊び

2003年のダウン症児の就学状況（小・中・高）

（土井知己他；日本遺伝カウンセリング学会誌2004年より）

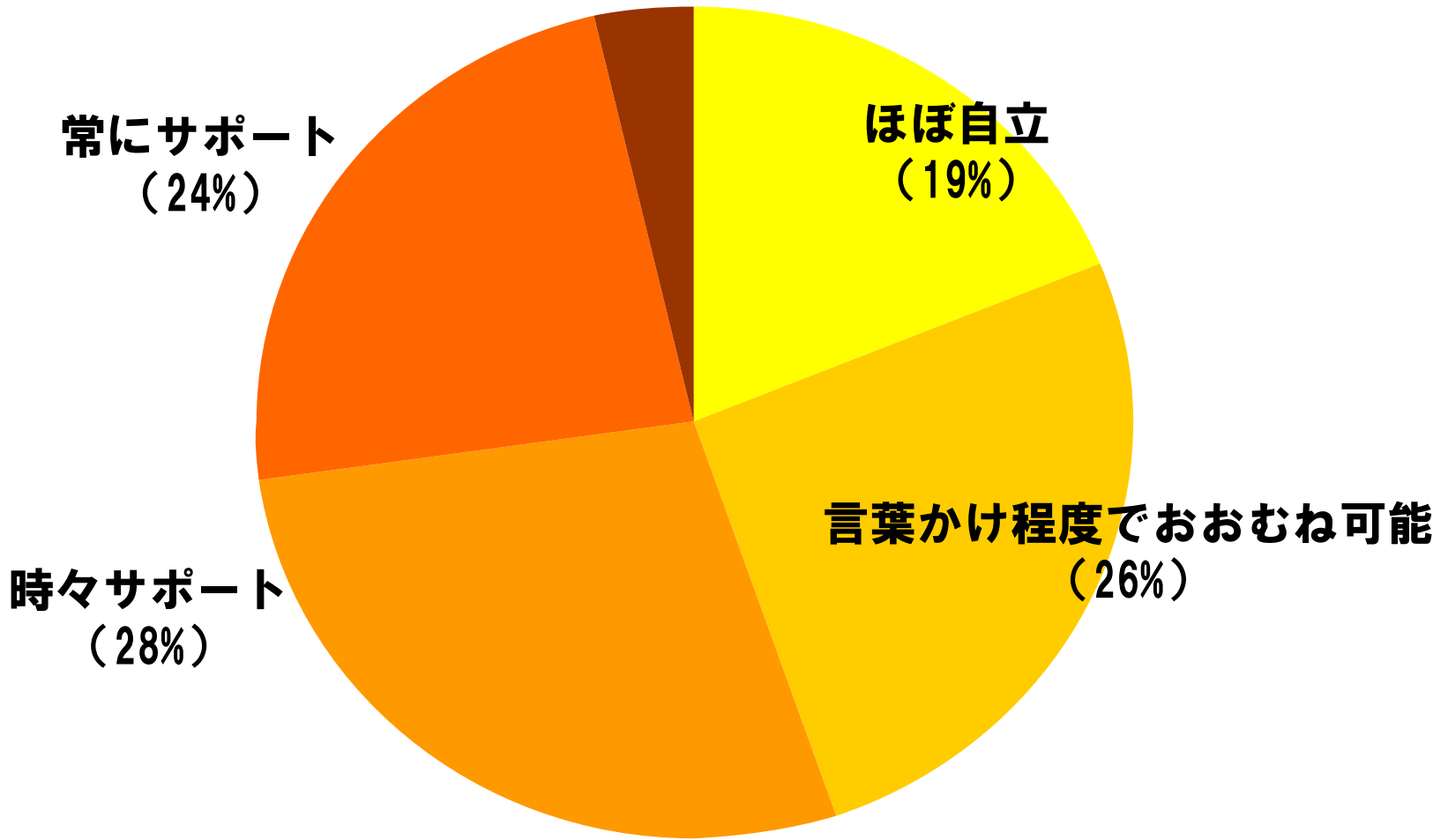


- ・ 医療的ケア
（呼吸調整や摂食介助、痰の吸引など）
- ・ 投薬
（痙攣発作、興奮、攻撃性の軽減）



特別支援教育の概念図
（義務教育全児童1019万;26年5月1日現在）

困難 (4%)



日常生活能力

(ダウン症児16歳～65歳；549人)

(近藤達郎著「ダウン症者・家族が幸せにくらすために」より抜粋)

児童期以降の生涯発達

健康高齢タイプ

急激退行

アルツハイマー病

- ・ 思春期以降（20歳前後に多い）
適応障害が持続する場合に起こる
可能性、頻度10%
- ・ 元気のなさ、表情の乏しさ、体重
減少、不眠、尿失禁、こだわりの
増悪、独語、白昼夢、小刻み歩行
- ・ 仕事や作業所に行けなくなる

- ・ 頻度：
35～49歳（8%）、50～59
歳（55%）、60歳以上（75%）
- ・ 見当識、記憶、言語、運動、
身辺自立のレベルダウン

誘因と対応

誘因

- 家庭環境の変化
(家族の病気、兄姉の結婚、就職など)
- 対人関係のつまずき
- 仕事のストレス

早期発見・早期対応

- 仕事の調整
- 第三者との関わり
- 生活リズム
- 余暇活動
- 適切な集団の確保
- 薬物療法、医学検査

何気ない事が本当の幸せ

(抜粋)

この子は生きようと必死なんだ。

中学生くらいのダウン症の子が面白い物をしていました。

その子はとっても楽しそうでその笑顔の先には同じように楽しそうな笑顔のお母さん。

その光景はとても楽しく幸せそうでした。

普通に一生懸命、育てよう。

それを楽しんで育てて行こう。

なんだか勇気をもらえた様なそんな特別な一日でした。

巡回療育相談を経験して

- 相談の場に、こどもを中心とし、親、園の先生、教師、町の保健師さん、発達支援事業所のスタッフ、家庭相談員、が集合されること(センターではほとんどない理想的な場面)
- 発達の確認、現状への対応や判断を巡回スタッフに委ねてくださっていることへの感謝とともに、責任が感じられる場
- 相談内容に適切な助言ができるかどうか、スタッフの対応能力を試される試験場のよう

作文 (小学6年男児)

初めてのバスケットボールの試合

五年生で初めて出た試合。

最初は取柄が張したけど、いっしょにうけんめいにやってみて、やっぱり、とてもうれしかった。特に、試合で初めてパスカートを七回ぐらいしてほめられて、「すごい」と三回おれられてうれしかった。

最初はうまくできなかつたけど、やっているうちにぼくは、みんなことが得意なんだと、あつた。初めて得意なことと、ちと見つけてうれしかった。

自分が得意なことと、人が得意なことはちがうことも、あつた。

これからは、人の得意なことも考えて、自分がどう動けばいいかを考えることが大切だとわかつた。

心理社会発達（エリクソンによる）

60代以降
自我の統合

40～60歳頃 世代性

22～40歳頃 親密性 / 孤立～幸福、愛

13歳～22歳頃 アイデンティティの確立

6歳～13歳頃 勤勉性 / 劣等感 ～ 自己効力感

3歳～6歳 積極性 / 罪悪感 ～ 目的を持つ

1歳半～3歳頃 自律性 / 恥や疑惑 ～ 意志力

0～1歳半頃 基本的信頼感 / 基本的不信感 ～ 希望